

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：32687

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17H02425

研究課題名（和文）地域活性化におけるエスニック資源の活用の可能性に関する応用地理学的研究

研究課題名（英文）A geographical study on the possibility of utilization of ethnic resources in regional revitalization

研究代表者

山下 清海 (Yamashita, Kiyomi)

立正大学・環境科学研究所・客員研究員

研究者番号：00166662

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,300,000円

研究成果の概要（和文）：世界各地で多民族化が進んでいる。多様なエスニック集団の存在を、エスニック資源として捉え、地域活性化のために積極的に活用することを検討することが、学術的にも社会的にも求められている。本研究は、海外および国内におけるエスニック社会を対象としたフィールドワークに基づいて、地域活性化におけるエスニック資源の活用の可能性について考察することを目的とした。

7人の本研究メンバーはエスニック集団とホスト社会との関係に焦点を当てながら、国内外における具体的な事例を調査した。その結果、地域活性化におけるエスニック資源の活用が有効であることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果については、2020年に開催された地理空間学会の第13回大会シンポジウムで、「地域活性化におけるエスニック資源の活用」というテーマで、研究成果を発表した。その後の参加者との質疑応答で研究上の課題等が明らかになり有意義であった。シンポジウムの発表成果は、「地理空間」13巻3号に掲載された。本研究では、各メンバーの詳細な調査研究により、具体的事例に基づくエスニック資源の活用が明らかになった。今後の課題として、学術的理論としての一般化に向けての研究をさらに進めていく必要性が明らかになった。と同時に、研究成果を実際の地域活性化に向けての社会的提言等にも反映していく重要性を再確認した。

研究成果の概要（英文）： Multi-ethnicity is becoming increasingly prevalent in many parts of the world. There is an academic and social need to consider the existence of diverse ethnic groups as ethnic resources and actively utilize them for regional revitalization. The purpose of this study was to examine the possibility of utilizing ethnic resources for regional revitalization based on fieldwork in ethnic communities in Japan and abroad.

Seven members of this study investigated specific cases in Japan and abroad, focusing on the relationship between ethnic groups and host societies. As a result, it became clear that the utilization of ethnic resources in community revitalization is effective.

研究分野：人文地理学

キーワード：エスニック地理学 エスニック集団 エスニック資源 地域活性化 エスニックタウン エスニック景観

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

本研究を進める前、エスニック集団とホスト社会との関係についての地理学、社会学、文化人類学をはじめとする多くの先行研究を検討するなかで、エスニック集団がもっているエスニック資源を、積極的に評価する視点に欠けていたことに気がついた。

今後、世界各地で多民族化が進んでいき、また人口減少、高齢化が進行する日本の将来の状況を考えた場合、多様なエスニック集団の存在を、新たなエスニック資源として捉え、地域活性化のために積極的に活用することの可能性について検討することが重要であると考えた。

そこで、長年、エスニック集団に関する研究に従事して来た科研費メンバーを組織し、各メンバーが取り組んできた国内外の多くの事例を比較検討することにより、地域活性化において移民エスニック集団が有するエスニック資源を積極的に活用する方策に関する研究に取り組むことにした。

## 2. 研究の目的

多民族化が進んでいく将来を考えた場合、多様なエスニック集団（移民、先住民）の存在を、エスニック資源として捉え、地域活性化のために積極的に活用することを検討することが、学術的にも社会的にも求められているのではないだろうか。そこで本研究は、海外および国内におけるエスニック社会のフィールドワークに基づいて、地域活性化におけるエスニック資源の活用の可能性について考察することを目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究は、以下のようなステップで研究を進めていった。

- 1) 研究資料の収集と分析、関連の先行研究の検討
- 2) 研究集会の開催による研究計画の再確認・情報交換・問題意識の共有
- 3) 海外における現地調査
- 4) 日本における現地調査
- 5) 現地調査による成果の検討、研究成果のまとめ・公表、社会への提言

2020年12月6日開催の地理空間学会の第13回大会シンポジウム（オンライン開催）では、「地域活性化におけるエスニック資源の活用」というテーマで、科研メンバー全員がそれぞれ発表をおこなった。

## 4. 研究成果

本研究の目的は、海外および国内において、地域活性化におけるエスニック資源の活用の可能性について考察することであったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、研究期間の1年間延長を認めていただき、当初の目的をおおむね達成することができた。各メンバーの研究成果を概略すると、以下のとおりになる。

北アメリカの地域では、矢ヶ崎典隆と大石太郎が研究を担当した。

矢ヶ崎典隆は、アメリカ合衆国のロサンゼルス大都市圏を対象として、エスニック社会を読み解くための視点と方法を提示し、エスニックタウンの動態をエスニック資源の活用に着目して検討した。エスニックタウンを読み解くための12の指標（エスニック空間、エスニック組織、エスニックシンボル、エスニック博物館、エスニックフェスティバル、宗教施設、エスニックバンキング、エスニックフード、食料品雑貨店、宿泊施設、エスニック新聞、エスニックテレビ・ラジオ局）を提示した。これらの指標はエスニック社会を構成する要素であり、エスニック資源でもある。エスニック資源に着目すると、移民の流入とエスニックタウンの萌芽から、エスニック資源が高度に活用されホスト社会への発信が活発化するまで、3段階が明らかになった。また、エスニック資源の活用形態は、時代の枠組み、地域の枠組み、移住プロセスの枠組みによって説明できることがわかった。

大石太郎は、カナダの沿海諸州に居住するフランス語系少数集団アカディアンの文化遺産を活用した地域活性化の可能性を検討した。カナダでは、文化遺産の代表格である史跡は当初から観光資源となりうることで認識されていた。1990年代以降、先住民、女性、エスニック集団の歴史が国史跡の指定に反映されるよう是正が図られ、1990年代にマイノリティとしてのアカディアンの正面から着目した国史跡が指定されている。2017年にはアカディアン文化の中心都市モンクトンにあるカトリック教会が国史跡に指定され、教会の機能を残しつつも、デジタル博物館として再生された。アカディアンの文化遺産の史跡指定やそれを活用したデジタル博物館の開館は北アメリカ各地に居住するアカディアンの末裔たちによるルーツ・ツーリズムの需要を

満たす可能性があり、ほかの観光資源と組み合わせることで観光客の増加といった地域活性化への貢献が期待されることを指摘した。

ヨーロッパの地域では、加賀美雅弘、根田克彦、石井久生が研究を担当した。

加賀美雅弘は、ヨーロッパのエスニック集団として、特にロマを対象にしたエスニック資源の活用に関する研究を行った。ヨーロッパのエスニック集団の多くがすでに固有のエスニック資源を活用したさまざまな事業を展開するなかで、ロマは社会的地位が低く、ヨーロッパ社会で差別の対象になりやすいことから、固有の資源の活用はきわめて少なかった。そこで、ロマが比較的多く居住するオーストリアのブルゲンラント州において、ロマの自助団体や地方自治体、市民を対象にした聞き取り調査を実施した。その結果、ロマが主体となって自身の歴史や文化をアピールし、地域社会におけるロマへの理解や協力関係を高めようとする動きがあること、これによってロマ自身のアイデンティティが強められつつあることが明らかになった。そのうえで、未知の集団とされてきたロマの個性が住民間の連携をもたらし、これによる地域活性化の可能性を展望することもできた。

根田克彦は、インナーロンドンのバングラタウンとして著名なブリックレーン・タウンセンターに焦点を当てて研究した。1990年代後半以降、ブリックレーンがあるタワーハムレッツ議会はブリックレーンをバングラタウンとしてブランド化し、バングラデシュ系住民の起業機会を確保し、観光地として発展させた。ブリックレーンの北部は文化・クリエイティブ産業が集積し、夜間経済が発展した。さらに、ストリートアートが観光客を全国から吸引した。しかし、2013年以降、南部ではバングラデシュ系の事業所が減少し、多様なエスニック料理と高級専門店が増加しており、商業ジェントリフィケーションの可能性もある。このように、ブリックレーンは観光地として発展したが、タワーハムレッツ議会のタウンセンター政策では、ローカルな需要を満たすディストリクトレベルの階層に位置づけており、現実と政策とにギャップがあることも明らかにした。

石井久生は、バスク人のエスニック資源に注目し、ヨーロッパのバスク地方と、アルゼンチン・ブエノスアイレス市のバスク・ディアスポラにおいて現地調査を実施した。一連の研究では、バスク人のエスニック資源として、同胞ネットワークなどの社会資本や、ナショナリズム運動のシンボルとしての文化的資本の面に注目した。その結果、ヨーロッパのバスク地方においては、文化資本としてのバスク語やバスク文化のナショナルな価値を高めることで地域活性化を進めるバスク人コミュニティの姿が浮き彫りになり、そうした彼らの変化をかつての過激で熱いナショナリズムから穏健で静かなナショナリズムへの転換として説明した。このようなバスク地方の動きは、世界最大のバスク・ディアスポラであるブエノスアイレスのバスク人コミュニティにも伝播しており、同地域でもエスニック資源を活用した穏健なナショナリズム運動を確認することができた。

日本国内では、福本 拓と山下清海が調査研究をおこなった。

福本 拓は、主として、大阪の在日コリアン集住地区、特にコリアタウンの観光地化に注目し、グローバルな韓国文化流行とローカルなエスニック空間との関係を分析した。K-POP や韓国産化粧品などに対する日本人若年層の嗜好が、彼ら・彼女らを対象とした店舗の集中を促進しており、それら店舗が元来のコリアタウンの境界を越えて拡大する様相が明らかとなった。コリアタウンの既存商店は、このような変化について、必ずしも売上増には寄与していないものの、賑わい創出を通じたエスニック空間の経済的価値向上として歓迎している。ただし、地価上昇や混雑に伴うトラブルなど、ツーリズムに関連する問題も生じている。また、多文化共生の推進といった社会的価値に対しては及び腰であり、過去の差別に由来する政治的問題が依然として尾を引いていることが看取された。しかしながら、エスニック空間の真正性はこうしたネガティブな側面を含む歴史から生じるものであり、エスニック資源を介した地域活性化においてもこの点を看過するべきではないことを示した。また、これら以外に、近年の技能実習生に代表される外国人労働力の急増に伴う地域社会へのインパクトを探るために、三重県北勢地域における企業・労働者調査を実施した。

山下清海は、さまざまなエスニック集団の中でも、おもに華人に焦点をあてて研究を進めた。国内においては、横浜中華街、東京の池袋チャイナタウン、埼玉県の西川口チャイナタウン、大阪の西成区あいりん地区などにおいて調査した。日本では、華人の食文化が地域活性化の有力なエスニック資源となっている。東南アジア、北アメリカ、ヨーロッパ、オセアニアなど海外の多くの地域においても、同様な傾向が認められる。しかし、イスラム圏であるアラブ首長国連邦のドバイや、貧困層が多い南アフリカのヨハネスブルグなどの調査では、現地に進出した華人によって形成された中国製品を販売するショッピングモールが、当該地域の地域活性化で重要な役割を果たしている。地域活性化におけるエスニック資源の活用においては、ホスト社会がどのようなエスニック資源を受容するかが重要であることが明らかになった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計44件（うち査読付論文 17件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 26件）

1. 著者名 山下清海	4. 巻 44
2. 論文標題 アジアのチャイナタウンを巡る 第1回 ミャンマー, ヤンゴンのチャイナタウン	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Think Asia	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下清海	4. 巻 45
2. 論文標題 アジアのチャイナタウンを巡る 第2回 インド, コルカタのチャイナタウン	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Think Asia	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下清海	4. 巻 46
2. 論文標題 アジアのチャイナタウンを巡る 第3回 マレーシア, クアラルンプールのチャイナタウン	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Think Asia	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下清海	4. 巻 47
2. 論文標題 アジアのチャイナタウンを巡る 第4回 韓国, 仁川のチャイナタウン	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Think Asia	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下清海	4. 巻 48
2. 論文標題 アジアのチャイナタウンを巡る 第5回 インドネシア, ジャカルタのチャイナタウン	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Think Asia	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下清海	4. 巻 49
2. 論文標題 アジアのチャイナタウンを巡る 第6回 アラブ首長国連邦, ドバイのチャイナタウン	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Think Asia	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下清海	4. 巻 50
2. 論文標題 アジアのチャイナタウンを巡る 第7回 タイ, バンコクのチャイナタウン	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Think Asia	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下清海	4. 巻 51
2. 論文標題 アジアのチャイナタウンを巡る 第8回 シンガポールのチャイナタウン	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Think Asia	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢ヶ崎典隆	4. 巻 67(4)
2. 論文標題 ロサンゼルス・エスニックタウンの光と影	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 24-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢ヶ崎典隆	4. 巻 69(2)
2. 論文標題 地誌学の視点・方法とアメリカ地誌	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新地理	6. 最初と最後の頁 110-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 根田克彦	4. 巻 17
2. 論文標題 イギリスの飲食店に対する新型コロナウイルス対策とそのタウンセンター政策への影響	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 E-journal GEO	6. 最初と最後の頁 319-337
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4157/ejgeo.17.319	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井久生	4. 巻 68(4)
2. 論文標題 スペインとフランスの国境地域としてのバスク地方	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 38-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福本 拓	4. 巻 26
2. 論文標題 地域労働市場における外国人労働者の階層化の兆候 三重県北勢地域を事例に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 空間・社会・地理思想	6. 最初と最後の頁 57-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福本 拓	4. 巻 4
2. 論文標題 エスニック市場, 大阪生野コリアタウンの変容	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 K	6. 最初と最後の頁 27-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下清海	4. 巻 13 (3)
2. 論文標題 地域活性化におけるエスニック資源の活用に関する研究の意義 - 特集号の趣旨 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 194-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24586/jags.13.3_139	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山下清海	4. 巻 13 (3)
2. 論文標題 日本の地域活性化におけるエスニック資源の活用要件 - 中華街構想の問題点と横浜中華街の実践例を通して -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 253-269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24586/jags.13.3_253	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山下清海	4. 巻 13(3)
2. 論文標題 地域活性化におけるエスニック資源の活用 - 特集号の総括にかえて -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 271-274
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24586/jags.13.3_253	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢ヶ崎 典隆	4. 巻 13
2. 論文標題 ロサンゼルス大都市圏におけるエスニックタウンとエスニック資源の活用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 143 ~ 160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24586/jags.13.3_143	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加賀美 雅弘	4. 巻 13
2. 論文標題 オーストリアにおけるロマのエスニック資源活用の可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 215 ~ 230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24586/jags.13.3_215	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加賀美雅弘	4. 巻 68(2)
2. 論文標題 BrexitからアプローチするEU/ヨーロッパ理解	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新地理	6. 最初と最後の頁 62 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 根田克彦	4. 巻 13
2. 論文標題 ロンドン, タワーハムレッツにおけるブリックレーン商業集積地とタウンセンター政策	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 179 ~ 196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24586/jags.13.3_179	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井久生	4. 巻 13
2. 論文標題 文化の祝祭にみるエスニック資源と地域活性化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 197 ~ 214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24586/jags.13.3_197	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井久生	4. 巻 27
2. 論文標題 20世紀初頭のアメリカ西部にバスク人が生産したエスニック景観 ネヴァダ州エルコの事例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 共立女子大学・共立女子短期大学総合文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 143-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大石太郎	4. 巻 13
2. 論文標題 カナダ, 沿海諸州におけるアカディアンの文化遺産を活用した地域活性化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 161 ~ 177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24586/jags.13.3_161	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福本 拓	4. 巻 13
2. 論文標題 韓流ブーム下での大阪・生野コリアタウンの変容	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 231 ~ 251
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24586/jags.13.3_231	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 蘭 信三・李 洪章・人見佐和子・福本 拓・伊吹 唯	4. 巻 15
2. 論文標題 方法としてのインタビュー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コスモポリス	6. 最初と最後の頁 65-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 根田克彦	4. 巻 14
2. 論文標題 マスタープランにおける商業立地政策と大型店開発のための都市計画決定	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 E-Journal GEO	6. 最初と最後の頁 345-363
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4157/ejgeo.14.345	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 根田克彦	4. 巻 68 (1)
2. 論文標題 奈良市における中心市街地活性化と大型店の立地規制	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 奈良教育大学紀要 (人文・社会科学)	6. 最初と最後の頁 87-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20636/00013280	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大石太郎	4. 巻 39
2. 論文標題 首都オタワのカナダ・デーの特徴と新たな動向	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 カナダ研究年報	6. 最初と最後の頁 77-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石太郎	4. 巻 9(1)
2. 論文標題 カナダにおけるフランス語話者人口の地域的特徴 - フランコ・オンタリアンを中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際学研究	6. 最初と最後の頁 73-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山下清海	4. 巻 21
2. 論文標題 南アフリカ, ヨハネスブルグのチャイナタウンの変容と地域的特色 新旧のチャイナタウンの比較考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地球環境研究	6. 最初と最後の頁 63-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢ヶ崎典隆	4. 巻 11
2. 論文標題 甘さの地域構造を探る 砂糖をめぐるグローバリゼーションとローカリゼーション	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加賀美雅弘, 椿 真智子, 荒井正剛, 青木 久, 澤田康徳, 牛垣雄矢, 中村康子, 橋村 修	4. 巻 13
2. 論文標題 2018年度春季学術大会シンポジウム 地理教材としての景観写真の活用術	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 E-journal GEO	6. 最初と最後の頁 409-413
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大石太郎	4. 巻 64
2. 論文標題 北アメリカ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済地理学年報	6. 最初と最後の頁 214-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福本 拓	4. 巻 64
2. 論文標題 在日朝鮮人事業所の空間的分布と集住地区との関連性 1980年代以降の大阪を事例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済地理学年報	6. 最初と最後の頁 194-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福本 拓	4. 巻 29 (2)
2. 論文標題 外国人集住地域における多文化共生拠点施設の役割と課題 2018年の入管法改正を念頭に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宮崎産業経営大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢ヶ崎典隆	4. 巻 713
2. 論文標題 アメリカにおけるアジア系マイノリティ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史と地理（地理の研究）	6. 最初と最後の頁 68～75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加賀美雅弘	4. 巻 73
2. 論文標題 EU国境地域オーストリア・ブルゲンラント州の地域性 民族共生を踏まえた検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 学芸地理	6. 最初と最後の頁 32～44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 加賀美雅弘	4. 巻 69
2. 論文標題 ヨーロッパにおける地名表記に関する検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要人文社会科学系	6. 最初と最後の頁 29～41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 根田克彦	4. 巻 16
2. 論文標題 イーストロンドンの都市再生と立候補ファイルにおけるオリ ンピックレガシー計画	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本都市計画学会都市計画報告集	6. 最初と最後の頁 158～165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石井久生	4. 巻 35
2. 論文標題 バスクの故地とディアスポラをめぐるモビリティのポストモダニティ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 共立国際研究	6. 最初と最後の頁 39～62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大石太郎	4. 巻 12
2. 論文標題 カナダにおける二言語主義の現状と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 E-journal Geo	6. 最初と最後の頁 12～29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4157/ejgeo.12.12	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大石太郎	4. 巻 9
2. 論文標題 ケベック州における英語話者の居住分布と言語環境への適応	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ケベック研究	6. 最初と最後の頁 59～74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福本 拓	4. 巻 21
2. 論文標題 エスニック・セグリゲーション研究に関する覚え書き 日本での実証研究に向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 空間・社会・地理思想	6. 最初と最後の頁 15～27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Ishii, Hisao
2. 発表標題 Durangoko Azoka geografo japoniar baten ikuspuntutik. (日本人地理学者の視点からみたドゥランゴブックフェア)
3. 学会等名 Durangoko Azoka 2023 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大石太郎
2. 発表標題 カナダ, 沿海諸州におけるエスニック・イベントの地域に果たす役割 世界アカデミアン会議の観察から
3. 学会等名 日本地理学会春季学術大会 (エスニック地理学研究グループ研究集会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 福本 拓
2. 発表標題 日系ブラジル人・ペルー人による持ち家取得課程 三重県四日市市を事例に
3. 学会等名 日本地理学会秋季学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福本 拓
2. 発表標題 日本の非大都市圏における外国人労働者の増加とその特性 - 主要データからみる傾向 -
3. 学会等名 2022年度経済地理学会中部支部10月例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山下清海
2. 発表標題 地域活性化におけるエスニック資源の活用
3. 学会等名 地理空間学会第13回大会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 矢ヶ崎典隆
2. 発表標題 ロサンゼルス大都市圏におけるエスニックタウンとエスニック資源の活用
3. 学会等名 地理空間学会第13回大会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大石太郎
2. 発表標題 カナダにおける国指定史跡とエスニック集団の歴史的遺産を活用した地域活性化の試み - 沿海諸州のフランス語系少数集団アカディアンの事例 -
3. 学会等名 地理空間学会第13回大会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 根田克彦
2. 発表標題 ロンドン、タワーハムレッツ・ロンドン特別区におけるタウンセンター政策とエスニック資源の活用 ブリックレーン・ディストリクトセンターの事例
3. 学会等名 地理空間学会第13回大会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井久生
2. 発表標題 祝祭におけるエスニック資源の活用 スペイン・ドゥランゴにおけるバスク・ブックフェアの事例
3. 学会等名 地理空間学会第13回大会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加賀美雅弘
2. 発表標題 オーストリアにおけるロマのエスニック資源活用の可能性
3. 学会等名 地理空間学会第13回大会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福本 拓
2. 発表標題 韓流ブームに伴うコリアタウンの変容と地域活性化への課題
3. 学会等名 地理空間学会第13回大会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山下清海
2. 発表標題 日本におけるチャイナタウンからみるエスニック資源の活用とその課題
3. 学会等名 地理空間学会第13回大会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 矢ヶ崎典隆
2. 発表標題 地誌学の視点・方法とアメリカ地誌
3. 学会等名 日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山下清海
2. 発表標題 世界のニューチャイナタウンと西成中華街構想
3. 学会等名 立正地理学会秋季例会（大阪産業大学 梅田サテライトキャンパス）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下清海
2. 発表標題 第二次世界大戦後の横浜中華街の変容とその要因
3. 学会等名 日本地理学会春季学術大会（駒澤大学）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 根田克彦
2. 発表標題 ロンドン、インナーシティにおけるブリックレーン商業地の再生と民族多様性
3. 学会等名 人文地理学会大会（関西大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大石太郎
2. 発表標題 カナダ，ケベック州における多文化共生 - 現状と解決モデルの模索 -
3. 学会等名 人文地理学会第133回地理思想研究部会・第47回地理教育研究部会（近畿大学 東大阪キャンパス）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大石太郎
2. 発表標題 カナダ，沿海諸州におけるフランス系住民アカディアンの記憶と継承 - 世界アカディアン会議を中心に -
3. 学会等名 日本地理学会春季学術大会（駒澤大学）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福本 拓
2. 発表標題 第二次大戦後・在日朝鮮人の居住分布の変遷とその背景
3. 学会等名 経済地理学会中部支部4月例会（中部大学 名古屋キャンパス）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下清海
2. 発表標題 南アフリカ，ヨハネスブルグのチャイナタウンの地域的特色
3. 学会等名 2019年日本地理学会春季学術大会（専修大学生田校舎）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加賀美雅弘
2. 発表標題 オーストリア国境地域におけるロマ共生の動向
3. 学会等名 2018年度日本地理教育学会第68回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 根田克彦
2. 発表標題 ロンドンにおけるストラトフォード・シティと既存センターの統合
3. 学会等名 2019年日本地理学会春季学術大会（専修大学生田校舎）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大石 太郎
2. 発表標題 カナダのアイデンティティを表象する首都オタワのカナダ・デー
3. 学会等名 日本ケベック学会第10回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大石太郎
2. 発表標題 カナダ，ヴァンクーヴァー大都市圏におけるフランス語話者および非公用語話者の居住パターン
3. 学会等名 2019年日本地理学会春季学術大会（専修大学生田校舎）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大石太郎
2. 発表標題 カナダ，沿海諸州におけるアカディアン文化と観光の発展
3. 学会等名 日本地理学会2017年度秋季学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大石太郎
2. 発表標題 カナダ，モントリオール大都市圏における非公用語話者の居住パターン
3. 学会等名 日本地理学会2018年度春季学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福本 拓
2. 発表標題 在日朝鮮人自営業者の空間的分布と集住地区との関連性 1980年代以降の大阪を事例に
3. 学会等名 日本地理学会2017年度秋季学術大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 山下清海	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 328
3. 書名 華僑・華人を知るための52章	

1. 著者名 矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 174
3. 書名 地誌学概論 第2版 (地理学基礎シリーズ3)	

1. 著者名 加賀美雅弘編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 173
3. 書名 ヨーロッパ(世界地誌シリーズ11)	

1. 著者名 加賀美雅弘	4. 発行年 2019年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 165
3. 書名 食で読み解くヨーロッパ 地理研究の現場から	

1. 著者名 李 修京編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 352
3. 書名 多文化共生社会に生きる グローバル時代の多様性・人権・教育	

1. 著者名 阿部和俊・杉浦芳夫編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 あるむ	5. 総ページ数 114
3. 書名 都市地理学の継承と発展：森川洋先生 傘寿記念献呈論文集	

1. 著者名 石森大知・丹羽典生編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 368
3. 書名 太平洋の歴史を知るための60章 - 日本とのかかわり -	

1. 著者名 山下清海	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 328
3. 書名 世界のチャイナタウンの形成と変容 フィールドワークから華人社会を探る	

1. 著者名 石川義孝編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 80
3. 書名 地図でみる日本の外国人 改訂版	

1. 著者名 加賀美雅弘・荒井正剛編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 106
3. 書名 景観写真で読み解く地理（東京学芸大学地理学会シリーズ 第3号）	

1. 著者名 島津 弘・伊藤徹哉・立正大学地理学教室編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 116
3. 書名 地理を学ぼう 海外エクスカーション	

1. 著者名 水内俊雄・福本 拓・コルナトウスキ ヒェラルド編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大阪市立大学都市研究プラザ	5. 総ページ数 158
3. 書名 グローバル都市大阪の分極化の新たな位相 日本型ジェントリフィケーションの多様性	

1. 著者名 矢ヶ崎典隆編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 285
3. 書名 移民社会アメリカの記憶と継承 移民博物館で読み解く世界の博物館アメリカ	

1. 著者名 矢ヶ崎典隆・山下清海・加賀美雅弘編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 142
3. 書名 グローバルゼーション 縮小する世界	

1. 著者名 矢ヶ崎典隆・菊地俊夫・丸山浩明編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 139
3. 書名 ローカリゼーション 地誌へのこだわり	

1. 著者名 石井久生・浦部浩之編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 160
3. 書名 中部アメリカ	

1. 著者名 福本 拓	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 250
3. 書名 大阪のエスニック・バイタリティ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	矢ヶ崎 典隆 (Yagasaki Noritaka) (30166475)	日本大学・文理学部・教授 (32665)	
研究分担者	根田 克彦 (Neda Katsuhiko) (50192258)	奈良教育大学・社会科教育講座・教授 (14601)	
研究分担者	福本 拓 (Fukumoto Taku) (50456810)	南山大学・人文学部・准教授 (33917)	
研究分担者	加賀美 雅弘 (Kagami Masahiro) (60185709)	東京学芸大学・教育学部・教授 (12604)	
研究分担者	石井 久生 (Ishii Hisao) (70272127)	共立女子大学・国際学部・教授 (32608)	
研究分担者	大石 太郎 (Oishi Taro) (70433092)	関西学院大学・国際学部・教授 (34504)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------